

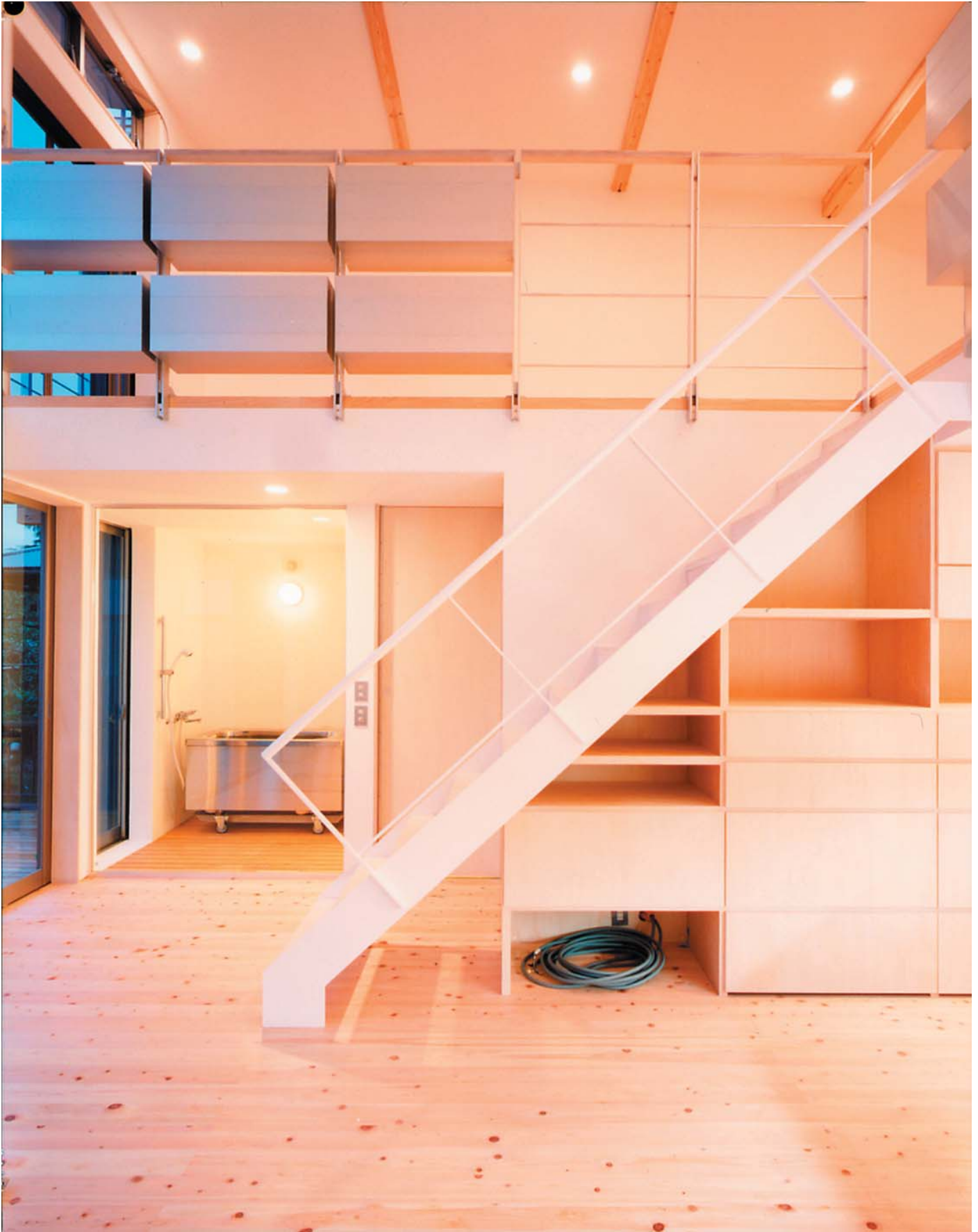


House in Myorenji (2003 ~ 2004)

[妙蓮寺の家] ハマナカデザインスタジオ 一級建築士事務所



写真：片岡陽太



写真：片岡陽太



写真：アレッシオ・グアリーノ

ゆるやかなつながり

各ゾーンはこの住宅の核となる吹抜をもつ主室を介してつながっている。あるいは、この吹抜を主室と名付けているというべきか。吹抜を介して回遊することで、空間のダイナミズムを捉えようとする意志が働くようになり、規模が小さいながらも豊かな体験を提供できると考えている。2階バルコニーには屋上へのはしごも取り付けられており、螺旋状の動きの軸も設定されている。

また、吹抜の空間が過度に開放的になることを防ぐこと、実用にも供することを意図して手摺りを兼ねたアルミ押出型材による組立式収納が設えられている。モジュールに従って計画されているこの収納は、必要に応じて収納棚のレイアウトが変更できるよう計画されている。

上階は将来空間が分節されることを考慮して構成されている。

上階からは、横浜らしくランドマークタワーやパシフィコ横浜などを見晴らす、すばらしい眺望を得ることができた。



写真：片岡陽太



写真：アレッシオ・グアリーノ



写真：片岡陽太

外部的内部および内部的外部

この周辺で典型的な傾斜地である敷地は南面しており、南側隣地の屋根は通常の平坦地におけるそれよりもかなり低い位置となっている。そのため、敷地南側に用意された空地の約半分を外部デッキが占めることになった。このデッキは主室床面と同じレベルに設定されているため、スペック上の面積値とは比較にならない空間の広がりを感じさせている。また、南側に張り出した庇により、夏場の直射日光は室内へ入ることはなく、逆に秋から冬、春にかけての高度の低い日射を室内へ多く取り込むことにも成功している。

外部デッキの使われ方により、主室が外部的内部のように感じられることもあれば、夏場タープなど天蓋を設けるようなきっかけで、逆にデッキ部を内部的外部と感ずることもある。

空間を名前で規定することなく、住まい手の手にゆだねるささやかな試みの一つと言えよう。



写真：アレッシオ・グアリーノ



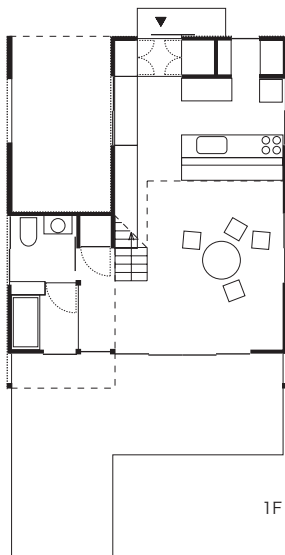
写真：アレッシオ・グアリーノ



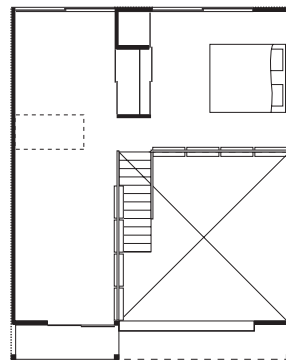


■計画概要

名称：妙蓮寺の家
 所在地：横浜市港北区
 主用途：専用住宅
 家族構成：夫婦 + こども 1 人
 地域・地区：第一種低層住居専用地域
 全面道路：北側 5.5m
 駐車台数：1 台
 敷地面積：169.52m²
 建築面積：60.27m²
 延べ面積：89.71m²
 構造・階数：木造 (SE 構法)・地上 2 階
 基礎：ベタ基礎
 最高高さ：6.4m
 階高・天井高：2,700mm・2,350mm、4,900mm
 設計・監理：ハマナカデザインスタジオ (濱中直樹)
 設計協力：フェムケ・ベルスマ、瀬田憲男 (Living Type)
 施工：小川建設株式会社
 設計期間：2003 年 5 月～2003 年 12 月
 施工期間：2004 年 1 月～2004 年 5 月



1F



2F

各階平面図 S: 1/200